

ジャパンクラブ

NEWS LETTER

Japan Club : 1759 Sutter Street #203, San Francisco, CA 94115 • Tel: 415-931-9424 • www.jpclub.org • jc-sf@sbcglobal.net

3月度理事会報告

「バス旅行」の打ち合わせを中心に今年度の行事について決める

ジャパンクラブ3月度理事会は、3月9日(土)予定を変更して午後4時からサンマテオ榴木マーケット2階に於いて9名の理事が出席して行われ今年度の行事・催し物について協議しました。

議題1. ガレーゼール

開催日は5月4日(土)午前8時半オープンとし、今回は前日の倉庫からの商品の搬出、終了後の残り商品の倉庫への搬入は今迄理事及び会員の手を借りておりましたが、外部の手伝いの人を雇い入れこれを行います。

開催日当日は朝8時半に手伝いの理事及び会員の方々の集合が担当の北哲也理事から要請がありこれを了承、会員の方々も半日でも結構ですのでお手伝いに来てください。

議題2. バス旅行について

久しぶりに開催予定の「日帰りバス旅行」について、開催日:5月26日(日)とし、目的地:カリフォルニア・ゴールドカントリー(コロニア州立公園とレイルタウンの列車乗車体験)が決まりました。

既に先月のニュースレターで一部のお知らせをしておりますが最終的に次の事柄が決定しました。

当日のスケジュール

8:00A.M. ベイエリアをチャーターバスで出発

(集合場所として1.サンマテオ、榴木マーケット前 2.ジャパンセンター、ユニオンバンク前 3.イーストベイ、パウエルストリートの3箇所)

10:45 レイルタウン到着

11:00 列車の体験乗車

12:00 レイルタウン帰着

(昼食は各自市内のレストランで自由に摂る、その後は自由行動となりコロニア・ヒストリックパーク等を見学、散歩等)

15:00 コロニア出発

18:00 ベイエリア帰着予定

会費は一人35ドル、40名の参加を目標に、不足分は会から補填する

暫定申し込み締め切り日を4月20日とし、参加人数が40名に達しない場

合は中止も含めて再検討する。

議題3. その他の今年度の催事予定

・定期総会

7月20日(土)午前1時から昨年同様バスクセンターに於いて開かれます、会場は大隅敏男副会長が予約済み、内容等については今後協議する。

・B.B.Q. ピクニック

9月1日(日)に昨年と同じサンマテオ・コヨーテポイントに担当の北哲也理事により予約済み、企画内容は今後協議する。

・親睦ゴルフトーナメント

6月26日(水)にウイローパークゴルフクラブに於いて開催を予定、沖山泰彦担当理事が予約、詳細を検討する、3組12名の枠で10時スタートを予定。

以上で終了しましたが、今月末ハワイに移住される大槻悦子副会長を囲んで理事による”ご苦勞さん夕食会”を催し7時過ぎ迄歓談しました。尚、大槻さんは5月のバス旅行、7月の総会にも出席予定との事でした。

4月の理事会は当初4月13日(土)の予定でサンフランシスコ日本町、ジャパンクラブ事務所の予定でしたが、桜祭りに係りますので、4月27日(土)午後4時から、サンマテオ榴木マーケット2階にて開く事に変更になりましたのでお間違えなく。



「日帰りバス旅行」の楽しみ

その2-歴史の街コロニア

日時: 5月26日(日曜日)

場所: ジェームスタウンとコロニアの街

会費: \$ 35.00 (バスの中での朝食弁当、お茶を含む)

ゴールドラッシュ当時の雰囲気そのまま保存されているコロニア、町全体が州立歴史公園になっている。コロニアで金が発見されたのは1850年で、最盛期には1万5千人ほどが住んでいたゴールドラッシュ最大の町。コロニアでは、砂金採掘場、ウェルズ・ファーゴの駅馬車の駅、鍛冶屋、木造のシテイホテルやサルーン、ジェネラルストアや床屋がそのまま面影を残していて、当時の町の雰囲気が良く解る。

コロニアでは、金鉱のツアーもあり、ゴールドパニング(砂金すくい)もやらさせてくれる。また、博物館の見学や写真館で昔のコスチューム姿で写真撮影をしたり、鍛冶屋で蹄鉄

に自分のイニシャルを彫ってもらうなど、ゴールドラッシュの夢にふけりながら町の店をのぞいて歩くのが楽しい。

コロニアは映画のロケ地としても有名で、ゲリー・クーパーとグレース・ケリーが出演した映画「真昼の決闘」(ハイヌーン)の舞台でもある。

ウェルズ・ファーゴの駅馬車、試乗してみますか



当時の服装で記念写真等いかがですか

砂金採掘場「砂金すくい」も体験出来る



アメリカの良さ、日本の良さ

上野 正安

私は2000年に会社経営から引退した後、本を書いたり大学や講演会で講師を務めたりしました。その間2005年から2011年までの6年間は群馬県立女子大で「世界の中の日本」という講座を持ち、日米の政治、経済、企業経営、社会、文化の5分野について日米比較論を話しました。その中で私の実際の生活体験に基づいた「アメリカの良さ、日本の良さ」と言う話は皆様にもご興味があるかと思ひ、そこで掲げた夫々の良さ10項目を参考までにご紹介します。皆様、どう思われますか。

アメリカの良さ

1. 広い空間
2. 物の豊富さ
3. 発達した車社会
4. スポーツ天国
5. 合理的な冠婚葬祭
6. パーティ・ライフ(クラブ・ライフ)
7. 自然を親しむ環境整備
8. 国家に対する信頼
9. 自己責任の原則
10. 高齢者の居場所

日本の良さ

1. 気配り、丁寧さ
2. 豊かな人間関係
3. 高度な食文化
4. 公共交通機関の便利さ
5. 四季の変化
6. 歴史の重み
7. 温泉文化
8. 床屋文化
9. 治安の良さ
10. 医療費の安さ

以上

「紙上法律相談」 第4回

回答者: 鈴木淳司弁護士 (マーシャル鈴木法律事務所社長)

質問1

日本の Ending Note の雛形はどのウェブサイトで検証できますか? 本、又は、Ending Note そのものを購入することは可能ですか? 米国にもこのような、Ending Note はあるのでしょうか? それとも、Living Trust と Will 等の一式の書類で Ending Note の内容を管理するのでしょうか?

回答

まず、Ending noteというのは、最近映画になったりして流行っていますが、伝統的に存在するものではありません。法律的な面からみると、「ひな形」といえるようなものはないと言えます。ですので、ご自身で検索されて、使いやすいものを選ばれば良いと思います。

これは日本でもアメリカでも同様ですが、Ending Noteというのは、法律的な概念ではありません。あくまでも事実的に自分をみとつてくれる人たちに、頼んでおくためのノートであって、それを裁判所に持っていったからといって強制力をもつわけではありません。法律のかどうかをわける重要な点は、遺言であれば、その内容を最終的には裁判所に持ち込んで判断してもらえますが、Ending Noteなるものについてはそのようにはできません。

どちらにしても、まず自分の周りにEnding Noteの内容を自発的に行ってくれる理解者がいること、その内容が明確なことが必要でしょう。ただ、内容については、自由であるということになりましょう。

基本的に米国において、私は(1)リビングトラスト、(2)遺言、(3)植物状態になったときのための治療に関する委任状、および(4)植物状態になったときのファイナンスに関する委任状の4つをつくっておけば、それで充分であると言ってきました。もし、どこに埋葬して欲しいのか、骨をどうしたいのか、一定の宗教に沿った対応をして欲しいのか、などは、(1)または(2)に記述しておけば足ります。また、自分の持ち物を誰か特定の人にあげたければ、(1)または(2)に記述しておけばよいでしょう。

あまり、Ending Noteなどという流行りの概念に流されず、法律上必要なものをまずは整備することを念頭においてください。それでカバーできない部分については、自発的に協力してくれる人を複数探しておいて、リストをつくって頼んでおくことになろうかと思ひます。

「紙上法律相談」は鈴木淳司弁護士のご協力を得て皆さんのご質問にお答えしていただいております。ご質問やお聞きしたい事がありましたらどしどしお寄せください

鈴木弁護士に直接連絡をされる方は:
 マーシャル・鈴木総合法律グループ 代表弁護士 鈴木淳司
 150 Spear Street, Suite 725, San Francisco, CA 94105
 代表電話: 415-618-0090 代表電子メール: info@marshallsuzuki.com

大隅敏男副会長夫人、妙子さんのお母さん柳てるよさんは1月21日で100才の誕生日を迎えられました。1913年ハワイのヒロ生まれの二世。一人娘の妙子さんと常に元気で大きな病気もされなくて現在も大隅さんご夫妻と同居、同じ食事でも特別な健康運動もされていないとの事、本当におめでとございます。



新聞と広告 (寄稿文)

第2次安倍政権が発足してから早や2ヶ月余になる。大胆な金融緩和、財政政策、成長戦略の「3本の矢」で長く続いたデフレ脱却を目指すことと公約したか既に株価は上がり円安は効果を表わしデフレ解消の兆しが見えてきたのか、しかし経済の実勢を考えると未だ疑問に思ふ一般庶民は多いと思う。

国内需要を喚起するあの手の手が各所に見られるが、最近新聞の紙面広告が大きく、且つ増えてきたのも目立つ。また日本へ帰って特に気がついたことは毎朝配達される新聞の折込広告がものすごい量になってきたことだ。一週間毎日折込広告が入ってない日はないが、これもまたアベノミクスの影響か、ちょっと驚いている。

普通、朝刊に入ってくる折込広告は平均20~30枚(大きさは新聞の半頁大)だが、或る朝(金曜日)数えてみたら何と50枚余の折込広告が入っていた。暇と興味半分で分類してみたら、戸建、マンションなどの住宅販売広告が半分、次に多かったのが小・中・高・大学の進学塾予備校の広告、そしてドラッグストア(最近では米国式で薬以外の雑貨や食品まで扱っている)と食料専門スーパーなどである。墓地の分譲広告も結構ある。広告の種類、枚数などから日本の世相や動向の一端をうかがい知ることができるような気がする。

さて、新聞本紙の内容はというと、全く多様で、諸々の天災・人災、事故・犯罪、スキャンダルなどに始まり、政情・社会不安、経済低迷などを煽るような暗い話題が多く全般に明るい話題が少ない。

もう大昔のことになるが、サンフランシスコで日系新聞を購読していたときに、ある時期から本紙上の広告が目立って多く且つ大きくなり、肝心の情報記事のスペースが非常に少なくなったこと。合計僅か8頁の新聞に全頁の広告が2件も載ったことがあり「我々は広告にたいして高い購読料を払っているのではない」と、多くの購読者が新聞社に苦情を申し入れたことがある。その結果また元の記事と広告のまともな割合に戻った記憶がある。

日本では現在、月額約4千円(\$50位)の新聞購読料を払っているが何とその半分は読みたい情報記事に対してではなく商品やサービスの広告に対して払っている計算になる。広告内容は多様であるが見たくもないものが半分以上はあろうか。

まあ内容はともあれ、隠退した我々にとって有り難いのは毎朝配達される分厚い新聞と折込広告を出勤時間を気にせず、日向(ひなた)ぼっこでゆっくり読める(見る?)ことだ。老令者の脳軟化予防や活性化の一助にもなっているかとも思う。

東京 湯浅 昭 (元ジャパクラブ理事)